表す 感じる みんなのヒロバ

新幹線誕生60年

進化は続くよ 夢の超特急

脱線や故障で事故ゼロ

時速２００キロ以上の高速で主要都市を結ぶ新幹線が誕生して、今年で60年。１９６４年に世界初の高速鉄道として開業し、「夢の超特急」と呼ばれた東海道新幹線から、２０２２年に開業した西九州新幹線まで、全国に路線が広がりました。

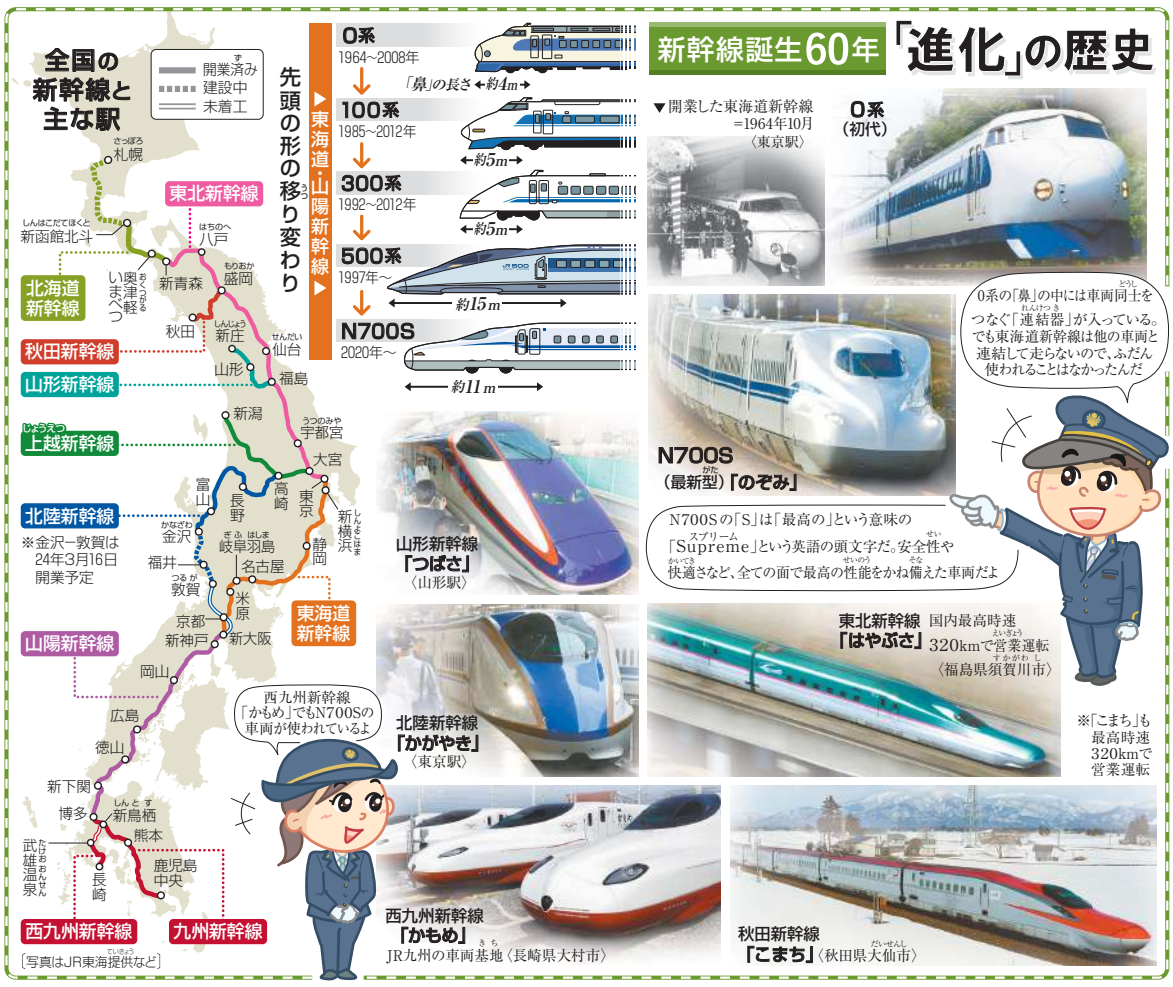
新幹線は安全な乗り物です。１９６４年に開業してから、乗車中のお客さんが脱線や故障などで亡くなったり、けがをしたりする事故は１件も起きていません。理由の一つが、列車のスピードを自動的にコントロールする「自動列車制御装置」を導入できたからだと言われています。

この装置が取り付けられた列車は、制限速度よりも速度が上がると自動的にブレーキがかかり、スピードを落とすことができます。ありえないことですが、運転士がわざと前を走る列車にぶつけようとしても、できない仕組みになっています。

さらに、全体の運行システムを支えているのが「新幹線総合指令所」です。東海道・山陽新幹線のすべての情報を集め、運行を管理しています。

中には大きな表示板があり、列車の現在位置などが一目で分かるようになっています。これらの情報にもとづき、「指令員」と呼ばれる人たちが運転士らに指示を出しているのです。東北・上越・北陸新幹線などにも同じようなシステムがあります。

しかし、安全上の理由から、指令所のくわしい場所は明らかにされていません。まさに、新幹線の安全を守る「秘密基地」なのです。



募集中

「3.11からの独り言」

河北新報社は震災13年の取り組みとして、東日本大震災を経験して感じたこと、心に残っている場面などを、おおよそ五・七・五でつづった短文「独り言」を募集します。地震や津波のこと、復興のこと、支援のこと、思い出せる人は短文を作成して、記憶を記録するとともに、応募してみませんか。

寄せられた独り言は河北新報オンラインなどで紹介する予定です。

応募方法
- 専用の入力フォームで受け付けます。締め切りは2024年1月31日
- 河北新報オンラインのピックアップか右記の二次元コードから接続してください
- 連絡先　防災・教育室 022(211)1591　メール　hitorigoto@po.kahoku.co.jp